

薄暗い空間

指導教員 吉松秀樹教授 印

3BEB3215 寶 優樹

1. 必要以上に明るい空間

薄暗い空間における、意図せずとも感じる落ち着きに魅力を感じた。しかし、現代の建築の内部は必要以上に明るく照らされる事によって落ち着きのない空間になっているのではないかと感じた (fig1)。



fig1 落ち着きを感じる薄暗い空間

2. 薄暗くても生活できる

日本家屋では徐々に暗くなる事によって目が順応し、薄暗くても支障なく生活していた (fig2)。また自然光を減衰させ間接的に取り入れることにより薄暗い空間であっても必要最低限の明るさで生活していた (fig3)。

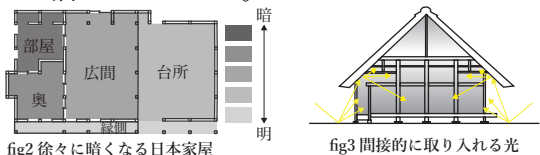


fig2 徐々に暗くなる日本家屋

fig3 間接的に取り入れる光

3. 薄暗さによる落ち着き

暗い空間では感じる部屋のスケールや奥行きが変化し、視覚的に狭く感じる (fig4)。また、他人の表情といった情報が制限され (fig5)、他人を認識しにくくなる事によりプライベートを保つために必要な距離が短くなる。このような要因により薄暗さの中に落ち着きを感じると考える。



fig4 暗さによって狭く感じる部屋



fig5 暗さで認識できなくなる表情

4. 圧迫感のない薄暗さ

日本建築は外部と視覚的につながることであり、圧迫感のない薄暗さを作り出している (fig5)。ボリュームに対して外部空間を貫入することで減衰した淡い光が差し込むとともに視覚的に外部とのつながり生まれ、圧迫感を取り払う (fig6)。

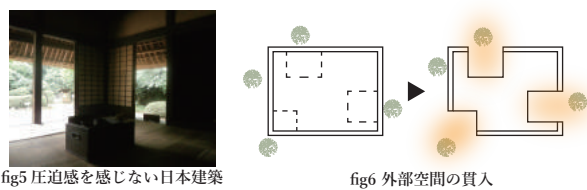


fig5 圧迫感を感じない日本建築

fig6 外部空間の貫入

5. 薄暗さのある住宅

鋭角に貫入した外部空間により各部屋を必要に応じて光で淡く照らし、落ち着きのある薄暗い空間を提案する。各部屋に暗さのグラデーションをつけることによって自分の好んだ場所を利用するとともに、目を順応しやすくする (fig7, fig8)。

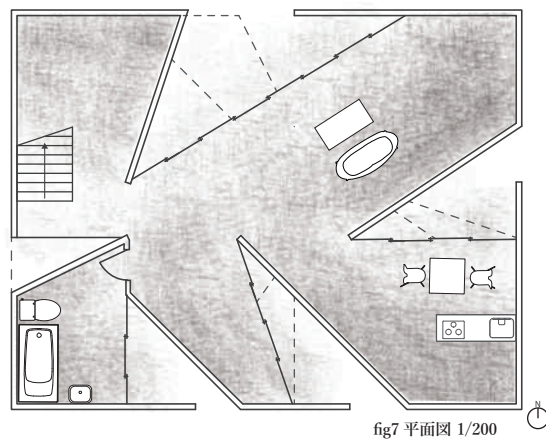


fig7 平面図 1/200

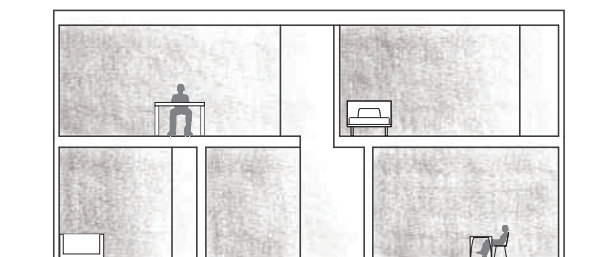


fig8 断面図 1/200